

指導資料

家庭科・技術・家庭科第37号

— 小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校対象 —



鹿児島県総合教育センター

平成24年 4 月発行

技術の定着を図る衣生活に関する指導の工夫 — 衣服の補修技術の指導と評価を中心に —

中学校技術・家庭科家庭分野の旧学習指導要領において、衣生活に関する「衣服の手入れと補修」については必修項目、「身体を覆う衣服の製作」については選択項目であったものが、平成20年3月告示の学習指導要領においては、衣生活に関する「布を用いた製作」を含めて必修項目となった。しかし、ある中学校2年生の学習前のアンケートでは、27人中、約6割強に当たる17人の生徒が、小学校での既習事項のボタン付けができないと回答しており、補修技術の確実な定着がなされていない実態もある。

そこで本稿では、製作を含めて必修となった衣生活に関する指導で、児童生徒の興味・

関心を高め、補修技術のより確実な定着を図るための指導とその評価規準の設定の仕方について述べる。

1 小・中・高等学校家庭科の衣生活に関する指導の在り方

表1は、小・中・高等学校の家庭科の衣生活に関する指導内容の関連を示したものである。小・中学校では、その円滑な接続を図るために、内容の体系化を図り、同じ枠組みをもつ内容に構成されている。また、高等学校では、中学校までの学習経験との関連を図り、生徒の実態に応じて適切に題材を設定することになる。

表1 家庭科の衣生活に関する指導内容の関連

小学校	中学校	高等学校「家庭総合」
C 快適な衣服と住まい	C 衣生活・住生活と自立	衣生活
(1) 衣服の着用と手入れ ア 衣服の働きと日常着の快適な着方 イ 日常着の手入れ ボタン付けや洗濯（手洗い）	(1) 衣服の選択と手入れ ア 衣服と社会生活のかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫 和服の基本的着装 イ 衣服の計画的な活用や選択 既製服の表示と選択、 リフォーム ウ 衣服の材料や状況に応じた日常着の手入れ 洗濯機での洗濯と補修（まつり縫い、ほころび直し、スナップ付け） （※2）	(4) 生活の科学と環境 イ 衣生活の科学と文化 被服の機能、着装、被服管理についての科学的な理解 (7) 人の一生と被服 ・被服の社会的機能を生かした着装の工夫 (4) 衣生活の自立と管理 ・衣生活を管理する知識と技術の習得 洗剤の働き、湿式洗濯と乾式洗濯の特徴、組成表示、品質表示、取扱い絵表示 (9) 衣生活の文化と製作 ・ 身体を覆う「衣服」を中心（※1） 付属品、装飾などの創意工夫 ・布を使った伝統的な生活の工夫 (x) 衣生活と環境 ・環境と安全に配慮した被服の入手と活用、環境保全に配慮した再利用など衣生活の適切な管理 ・資源有効利用の観点からの循環型の被服計画の必要性
(2) 快適な住まい方 ア 住まい方と整理・整頓や清掃の仕方 暑さ・寒さ、通風・換気及び採光 イ 季節の変化と快適な住まい方の工夫	(2) 住居の機能と住まい方 ア 住居の基本的な機能 鳥瞰（ちょうかん）図の活用での住空間の構想 イ 安全な室内環境の整え方、快適な住まいの工夫	
(3) 生活に役立つ物の製作 ア 布を用いて製作する物と製作計画 イ 手縫いやミシン縫い（直線縫い） なみ縫い、返し縫い、かがり縫い等 用具の安全な取扱い 針類、はさみ類、アイロン、ミシン	(3) 衣生活、住生活などの生活の工夫 ア 布を用いた物の製作、生活を豊かにする工夫 (1)のウとの関連、手縫い、ミシン縫い、アイロン、補修の技術 （※3） イ 衣生活又は住生活についての課題と実践（選択事項）	

○高等学校の内容は、必修教科目「家庭総合」の内容で、住生活の指導内容は省略
○下線部は、主な連続性・系統性を表すキーワード ○ゴシック文字は、主な取扱い内容

このように学びの連続性と系統性を重視しながら、各学校段階でどのような力を定着させるかを把握し、効果的な指導を行うことにより、衣生活に関する知識と技術の確かな定着を目指している。

さらに、平成21年3月告示の高等学校学習指導要領の総則では、教科横断的に「義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けること」が明記された。例えば、既習事項のボタン付けやまつり縫い等の基礎的・基本的な技術の定着不足を見取った場合は、指導内容「身体を覆う『衣服』を中心」(表1の※1)とした被服製作等で題材を工夫し、選択しながら、技術の定着を図らなければならない。このような、実験・実習などの実践的・体験的な活動を通して、知識と技術の定着を図る学習展開が一層重要になってくる。

2 衣生活に関する指導と評価の実例

ここでは、次の二つを授業設計の視点とし、まつり縫いの技術の確実な定着を図る指導と評価規準の設定例を示す。

視点Ⅰ	書画カメラやビデオ等を用いた ICT活用の工夫
視点Ⅱ	技術の定着を図るための指導の 工夫

(1) 指導の実例

以下の実践例は、鹿児島市立吉田南中学校の柿元慶子教諭の実践を基に作成したものである。表2は、中学校の衣生活に関する指導の「衣服の手入れと補修技術を活用した物の製作」の指導計画である。ここでは、「(1)のウ 衣服の材料

表2 「衣服の手入れと補修技術を活用した物の製作」の指導計画

題材 B 衣生活・住生活と自立 「衣服の手入れと補修技術を活用した物の製作」 全19時間	
学習内容	時間数
1 衣服の働きと日常着の活用	4
自分らしく着よう	(2)
衣服の選択と活用について考えてみよう	(2)
2 衣服の手入れと補修技術を活用したエプロンの製作	10
手入れのしかたを調べよう	(2)
衣服の補修の技術を取り入れた生活を豊かにするエプロンの製作	(8)
○ エプロン製作の計画を立てよう	(1)
○ スナップ付け、ボタン付けをしよう	(2)
○ まつり縫いができるようにしよう 【本時 1/2】	(2)
○ ミシン縫いができるようにしよう	(3)
3 これからの衣生活	5
資源や環境に配慮した衣生活を考えよう	(1)
リメイクやリサイクルに挑戦しよう (選択事項：衣生活の課題と実践)	(4)

や状況に応じた日常着の手入れ」(表1

の※2)との関連を図り、主として補修技術を生かしてできる、布を用いたエプロンの製作を指導する。ここでいう補修技術とは、制服のスカートやズボンのすそ上げに使われる「まつり縫い」、ミシン縫いによる「ほころび直し」、女子制服の袖口に使用されることの多い「スナップ付け」などである。題材選択に当たっては、小学校で学んだ基礎的・基本的な知識と技能などを発展させ、効果的に活用して製作ができるように留意する必要がある。

ア 授業設計の視点に基づく工夫

視点Ⅰ

中学校で初めて履修させるまつり縫いは、生徒が苦手意識をもつことの多い補修技術である。そこで、プレゼンテーションソフトで作成したスライド、教師の示範を接写する書画カメラなどのICTを活用し、まつり縫いを正確に縫うポイントを静止画と動画を効果的に取り入れながら、興味・関心を高

め、気付きを促し、技術を習得させる場面を設定する。

視点Ⅱ

まず、意見の交流が図りやすいと想定される4人程度のグループ編成をする。次に、シェアリングボード（意見集約板）を活用し、まつり縫いの特徴や正確に縫うためのポイントを模範例と失敗例の比較から考えさせ、文字や言葉で表現し、他者の考えを共有させる。この手立てにより、縫い方の規則性や機能性等の理解を促し、技術の定着を図る場面を設定する。

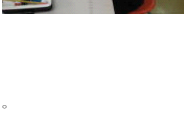
イ 取組の成果

授業前後のアンケートの結果から、授業前に「縫うことが好きだ。」と答えた生徒は、ほぼ5割であったが、授業後は8割に上昇した。また、約9割の生徒が「まつり縫いを理解できた。」

と回答している。変容の要因としては、「細かな縫い目も拡大して見ることができ、分かりやすかった。縫うごとにうまくなっていくので何回も縫いたい。」という生徒の感想から、ICTを活用することで、細かな技術も短時間で効果的に提示することができ、生徒の実習時間の確保とともに、技術の正確な習得につながったと考えられる。さらに、このことが、まつり縫いが正確にできるようになりたいという意欲の向上にも結び付いたのではないかと考える。

また、「文字や言葉で表現することで、正しい縫い目を意識しながら縫えた。」等の感想から、実技指導の場面でも、文字や言葉での表現を充実させることが班で教え合う活動につながり、まつり縫いの特性について深く考えさ

3 「まつり縫いの指導の工夫」の実践例

学習課題:まつり縫いはどのように縫うのだろうか。 目標:まつり縫いの特徴について自分の言葉で説明することができ、共有した情報を活用して、正確に縫うためのポイントを理解し、補修の技術を身に付けることができる。			
過程	時間(分)	学習活動	指導上の留意点
導 入	5	1 縫い目から縫い方を予想する。 	○ ICT(書画カメラ等)を利用し、布地の表の縫い目を提示し、縫い方を予想させる。 ○ 「まつり縫い」の表と裏の縫い目から気付いたことを発表させる。 視点Ⅰ、Ⅱ
	5	2 学習課題を設定する。 まつり縫いはどのように縫うのだろうか。	○ 発表を課題につなげられるように黒板に整理して板書する。 ○ 発問により学習課題を確認させ、一緒に読ませる。
展 開	5	3 まつり縫いの模範的な例と正確さを欠いた例を見ながら、正確に縫うためにはどうしたらよいか考える。 ・ 縫い目が細かい。 ・ 表から針目が見えない。 ・ 玉留めや玉結びも目立たないように縫われている。 ・ 折り山に沿って縫われている。	○ まつり縫いの模範的な例と正確さを欠いた例を見せ特徴について考えさせる。 視点Ⅰ、Ⅱ
	5	4 話し合った内容について発表する。 	○ 正確に縫うためのポイントをシェアリングボードにまとめさせる。 ○ 挙手により発表させる。
	5	5 教師の示範をスクリーンで見る。 	○ 見る視点を明確にし、しっかり観察させる。 ○ 書画カメラで映しながら、「まつり縫い」の方法について説明する。 視点Ⅰ
	10	6 練習布にまつり縫いをする。 	・ 縫い始めと縫い終わり ・ 針目の大きさ ・ 布の置き方・針目の方向 ・ 裏側の糸の始末の仕方 ○ まつり縫いの方が分かったか、練習布で確認をする。 ○ 机間指導を行い、まつり縫いができない生徒は個別に指導する。
終 末	5	7 練習布にまつり縫いを仕上げる。 	○ 表の針目が縦になる例を示し、補足する。 視点Ⅰ
	5	8 まつり縫いの方法を再度確認する。	○ プロジェクターで間違った縫い目を示し、正確にまつり縫いをするための要点を伝える。 ○ まつり縫いを仕上げさせ、成就感を味わわせる。 ○ 丁寧に、丈夫に縫うことを知らせる。 ○ まつり縫いを説明しているビデオで確認させる。 視点Ⅰ
終 末	10	9 片付けを行い、本時の反省をワークシートに記入する。	○ 自分の活動を振り返らせ、自分の思いを自由記述式で記入することで、事後の実践意欲を高めさせる。 視点Ⅱ
	10	10 次時の学習はエプロンのすそまつり縫いを完成させることを知る。	○ 次時の予告をする。

せることができ、定着を図るための相乗効果に結び付いたと考える。

(2) 評価規準の設定

平成23年7月、国立教育政策研究所から「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」が示された。家庭分野では、内容相互の関連を図り、題材を構成して指導すること(表1の※2, 3)から、「題材の評価規準」は、題材の指導目標を明確にして、複数の内容の「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にして設定することになる。従前は、毎時間、4観点について評価することを目指す傾向が見られたが、限られた時間で指導と評価の一体化を図るためには、題材の指導全体を通して、4観点を重点化して評価できるように評価計画を作成する必要がある。また、「学習活動に即した評価規準」は、単位時間のねらいや学習活動と照らし合わせて設定することになる。

表4は、衣服の手入れと補修技術を活用した物(エプロン)の製作に関する評価計画の例である。表4の※1は、表3の授業において、4観点のどの観点で評価するかを示した評価規準例である。

中学校での衣生活に関する知識と技術の確実な定着につながるよう、ICTを活用したり、授業展開や指導方法、さらには評価計画を見直したりなど、各学校において指導を工夫していくことが求められる。

今後は、県内各地区の研究会等で情報交換や評価に関する共同研究等が活発になされ、衣生活に関する指導が更に充実することを期待している。

- ー引用・参考文献ー
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成20年8月 東洋館出版社
 - 文部科学省『中学校学習指導要領解説 家庭編』平成20年9月 教育図書
 - 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭編』平成22年5月 開隆堂
 - 岡 陽子編・著『小学校 新学習指導要領の授業 家庭科実践事例集』平成22年 小学館
 - 国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 技術・家庭』平成23年7月

(教職研修課)

表4 「衣服の手入れと補修技術を活用した物の製作」の題材の評価規準と評価計画例

項目 事項	題材の目標	評 価 規 準			
		生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
C(1)の C(3)	衣服の働き、補修技術の手縫いやミシン縫いなどについての基礎的・基本的な知識・技術を活用して、生活を豊かにするための布を用いた物を計画・製作する。また、製作を通して、自分や家族の生活を豊かにすることの大切さや成就感を感じさせる。	衣生活や衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって布を用いた物(エプロン)の製作に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。	布を用いた物(エプロン)の製作や衣服の着用、選択、手入れについて課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	布を用いた物(エプロン)の製作や衣服の着用、選択、手入れに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	布を用いた物(エプロン)の製作や衣服の着用、選択、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。
時数	学習目標、主な学習活動	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
1・2	○ 衣服の手入れについて自分の衣服について調べ、適切な方法について考える。 ・衣服の汚れ、表示、洗濯、補修について知る。	衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れに関心をもち、洗濯や補修の課題に取り組もうとしている。	衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫している。	・衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができる。 ・補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。	・衣服材料の手入れに関わる性質、洗剤の働きと種類、汚れ方に応じた洗い方について理解している。 ・補修の目的と布地に適した方法について理解している。
3	○ 布を用いた物(エプロン)の製作の計画を立てる。 ・自分の製作題材の手順を確認する。	布を用いた物(エプロン)の製作に関心をもって取り組み、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。	衣生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫をしている。		布を用いた物(エプロン)の製作に関する知識を身に付けている。 ・材料と用具の選択・製作手順・目的に応じた縫い方・用具の安全な取扱い
4・5	○ ボタン、スナップ付けの目的と布地に適した方法について理解する。 ・適切なボタン、ナップ付けを理解する。	ボタン、スナップ付けの課題に取り組もうとしている。		ボタン、スナップ付けの目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。	ボタン、スナップ付けの目的と布地に適した方法について理解している。
※1 6・7	○ まつり縫いの目的と布地に適した方法について理解する。 ・適切なまつり縫いを理解する。	まつり縫いの課題に取り組もうとしている。		まつり縫いの目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。	まつり縫いの目的と布地に適した方法について理解している。
8～ 10	○ ミシン縫いの復習をし、目的と布地に適した方法について理解する。 ・適切なミシン縫いを理解し、能率よく作業を進め、補修の技術を生かし作品を製作する。 ○ ワークシートや自己評価からの評価 ・全体の製作計画を振り返り、作品の自己評価をまとめる。	ミシン縫いの課題に取り組む、エプロンを完成させようとしている。	作品やワークシート等から評価を再検討して、必要に応じて作品の修正をする。	安全で能率よく、布を用いた物(エプロン)の製作をすることができる。	ミシン縫いの目的と布地に適した方法について理解している。

